

先輩からのメッセージ

先輩①

分娩介助をするようになって感じることは、お産がスムーズに進んだり産婦さんやその家族にとって満足のいくお産に導くことができるかどうかは助産師としての自分の関わりによって変わってくると言うことです。だからこそ知識や技術、経験、観察力、判断力といった様々な能力が求められます。そこに助産ケアの難しさや責任の重さを感じ、また助産師としてのやりがいや魅力があるとも感じています。現在の産婦人科領域は家族背景の複雑な方や精神疾患を抱えた妊産婦さん等、関わりが困難なケースが本当に増えています。その中で、自分の関わりを振り返り、日々悩みながら働く毎日ですが、「助産師さんが傍に居てくれて心強かったです」「優しく声を掛けて下さり安心できました」等と自分の関わりや思いが患者さんにちゃんと伝わっていたのだと実感できた時や感謝の言葉をいただいた時には「やっぱり助産師って素敵な仕事だな」と感じます。

助産師になると決めた日からその熱い気持ちだけで突き進み、今はとてもやりがいを持って働くことが出来ています。

一人でも多くの方がこの学院、助産師という仕事により一層興味を持ち「絶対助産師になる！」という熱い気持ちを持って頂ければ嬉しく思います。そしてみなさんと数年後に同じ助産師として働けることを楽しみに待っています。

先輩②

産科病棟で、お産の現場に立ち、いのちの誕生に触れながら、その背後には母子の命を守らなければならない緊張感や怖さを感じている。

そして、

助産師の役割の重要性や、責任の重さを感じている。

とても素敵な仕事。すべての女性や家族に寄り添い、支える仕事。

自分にとっての大切な思いを持ちながら素敵な助産師になってほしい。

今、助産師になりたいとおもっているみなさんにわたしがいいたいことは、助産師はとても素敵な仕事！ということです。

すべての女性や家族に寄り添い、支え、いのちの誕生に出会えるほんとに素敵な仕事です。

助産学科での1年間は、楽しいですが、正直辛いこともあります。でも、助産師の仕事の責任の重さを思えば、当然のことでもあります。覚悟がないと、1年を乗り越えることができないことは確かです。けれど、乗り越えた先には、すてきな仲間との出会いや、助産師として、いのちの誕生に立ち会うことができます。そして、わたしも曖昧ですが。。。助産師として自分はなにをしたいか、自分のその気持ちを大切にしながら、素敵な助産師になってほしいと思います。

先輩③

助産師として働き始めてまだ3年目ですが、私にとってこの仕事の魅力は、出産という家族のスタートをお手伝いさせていただけることや、妊娠期～産褥期、また、その後の育児においても女性の味方として活躍できることだと思っています。中でも特に「助産師になってよかったな」と思う瞬間があります。それは、自分がお産に携わらせていただいたお母さんや赤ちゃん、健診や次の出産など何らかの機会でお会いした時です。「こんなに大きくなりました」という言葉をいただいたり、お子さんに「この助産師さんにお世話になったんだよ」と話しかけてくださっている姿をみると、涙が出そうになるくらいうれしいです。そして、お母さんや赤ちゃんの成長を見守ることのできるこの職業は本当に素敵だなと感じます。

また、母乳育児はお母さんと赤ちゃんにとってとても大切なもので、本当に奥が深いです。いろんな勉強会や講演会に出かけて勉強して、知識や技術を深めてお母さん方に少しでも還元できるよう努力することも、充実していて楽しいです。

このように、助産師の仕事の魅力は一言ではお伝えできません！ひとつ言えることは、いのちに携わる分責任が重い職業ですが、その分やりがいのある素敵な職業だということです。皆さんといつか一緒に助産師として活躍できたらうれしいです。応援しています。

先輩④

助産学科の1年間は講義や実習などであっという間に過ぎていきました。大変なこともありますが、とても楽しく充実した時間でした。そして、先生や家族、友達と一緒に支えながら学ぶことができたからこそ頑張ることができたと思います。

最後となりますが、みなさんは自分の母子手帳を見たことがあるでしょうか。母子手帳には分娩を介助した助産師の名前が記入してあります。助産師として働いてみて、母子手帳の欄に名前を書けるというのは嬉しい反面、一生残るものですし、一生に一度あるかないかの分娩に立ち会い、ママと赤ちゃんの二つのいのちを守る責任の重さも改めて感じています。それでも助産師はとても素敵な仕事だと思うのでみなさんも助産学科に進学され助産師となられることを応援しています。

先輩⑤

助産師としての仕事の魅力は、なんといっても命が生まれてくる神聖な場面に立ち会えるということだと思います。しかしそれは無事にいのちが生まれてきて嬉しく幸せな場面であることもあれば、そうではないときもあります。助産師には迅速な判断と対応が求められ、大きな責任があります。働いてみて、改めて責任の重さを感じ、挫けそうときもあります。しかし、どんな状況であっても女性を支えられていると感じることができた時のやりがいとはとても大きいです。妊娠期から、産後1か月くらいまでの間に深く一人の方と関わることができると、身内のように赤ちゃんの誕生や成長を嬉しく思えることも私にとって大きな励みです。また、助産師は開業できるということ、専門性を極めることができることが魅力だと感じます。

この学科で得られるものは知識や技術多くの学びですが、資格をとったあと、なにを考えどう働くかは自分自身です。道がある分、このままでいいのか、自分は目指しているものに近付けているのか悩むことも多いと思います。大変な仕事ですが、やりがいを見つけることができたなら本当に素敵で良い職業だと思います。

あと伝えたいことは、気持ちがあるなら諦めないでほしいということです。少しでも気持ちがあるなら、その気持ちと向き合って考えてほしいなと思います。自分の力だけでは難しいことも誰かの応援、協力があれば達成できることもあります。目に見えない力の導き、御縁というものも大切にしてほしいなと思います。まだまだ未熟私ですがこれからも頑張っていきたいともいます。みなさんもうなりたい自分、目指したい目標にむかって頑張ってください。